



「フランスにおける日本」記念参加事業 竹田豊樹・花江サトル
トール彫・ナンシー・サッシュ・モルバにて展覧会(花江サトル)を開催。

自分で自分に宿題が出せないようになったら、デザイナーをやめたほうがいい。50人、100人に笑われても、100万人にほめられよう。



アートディレクター
青葉益輝氏

前号に引き続き、平成10年2月19日、サンメッセ香川で行われた青葉益輝氏による香川県デザイン協会設立記念講演会の後半の模様をご紹介します。

デザイン料金には、すべての費用が含まれている。明細を作ると、デザイナーのたいへんさがわかります。

デザインの価格というものを少し考えてみたいと思います。どうぞ、お客様の側は、デザイン料を勘違いしているようです。デザイン料の中には、事務所の家賃も入っているし、人件費や電話代も入っている。デザイン料は、本来は付加価値であり、こんなデザインにすると、これだけ元気がついた、売れた、わかりやすくなったなどの「考えたことに対するお金」。私たちは、家賃だとか必要経費をすべてデザイン料に含めてしまっています。

試しに、デザイナーの仕事の内容を書き出してみたいと思います。紙を選ぶ、タイポグラフィもする、印刷もチェック、コスト管理もする……というように、カウントすると60項目ぐらい、これを1点2万円と換算すると120万円。これにデザイン料15万円をプラスする……こうするとデザイン料金の中身が見えてきます。

(予算の少ない地方ではなかなか難しいかも知れませんが)デザイナーは、明細を示して瞬時にこのように多くのことを考えているのだと、クライアントに理解いただく必要があるでしょう。

自分が何なのかということ。曲線なのか、直線なのか、大なのか、小なのか——。

ところで、みなさんはノートに落書きをしますか。その時、何を描いていますか。曲線ですか、直線ですか。

無意識にしていることで、自分は一体何ができるのかを知ることがあります。学生さんは、「かっこいいから」という理由で、自分にできないことを職業にしています。そうすると、いつまでたっても悔えているだけなんです。

若い人には、自分にしかできないことを早く発見してほしいと思います。早いうちに、悔れは悔れとして乗り越えてください。「私は、コンピュータのこの部分なら世界一になれる」とか、自分が世界一になれる場所を知り、自分の居場所を作るといことが大事なのです。植物でも動物でも、その場所をうまく選んだら、何万年も生きてこれたのです。

町並みに目を向けると、従来からあった町並みを、季節ごとに航空写真で撮ってみたら面白いでしょう。屋根がどのような色を持っているのか。それがグレーなら、その色を使う時は30%の補助金を出す。壁の色はどうかという具合に、その地域の色を活かして異物を排除すると、こんなに町がきれいになりますよというのを町の人に話す。これを守りましょう。50年、100年かかってもやりましょうよ。

また、1月1日に県民に白地図を配布し、この角度から見た風景は美しいというところに緑の矢印を、悪かったというところには、赤の矢印を付けてもらう。それを年末の12月31日に回収してみる。みんなが汚いところを直して、みんながきれいになりたいところは守ろう。そうすると、香川のどこでカメラのシャッターを押しても、美しい町になる。住みたい、行きたい地域になるでしょう。

ちなみに、ドイツがこの運動をやって、ペランダに花を置くようになったということです。私は、日本のいろんな地域の自治体に言っているのですが、なかなか実践してくれません。

地場産業には、一般の商品と戦える力を——。

地方のデザイナーにとって、地場産業とは縁が深いと思いますが、(自分が作った製品は)百貨店のどこに置くのか、商品の居場所を考えないとダメだと思います。百貨店の1階のブランドコーナーに行くのか、パーゲンコーナーに行くのか、やっぱり地場産業コーナーに行ってしまうのか……。地場産業は、一般商品と戦えなければいけません。

手袋ならば、(包む技術を活かして)クルマを包む袋を作りましょうとか、冷蔵庫に野菜を入れるといっぱいになるから、野菜を入れる袋を作りましょうとか、その技術は手袋にこだわる必要はないのです。



自動車で有名な豊田市は、昔、からくり人形が非常に発達していた。あれは歯車をたくさんつくり、それを利用して、豊田さんが機械織りの機械を作った。それが自動車づくりに活かされたのです。持っている技術が、次の時代の何かに役に立つことが良いことなのです。地場産業だと言って保護しちゃうと、発展できるのにとどめてしまう。指導するのではなく、応援しなければいけません。

ある所で、石を切る名人がいた。石を切るなら世界一だった。何でも切り始め、髪の毛を7枚に切った。そうすると、世界中のハイテク産業から声がかかったということです。

50人、100人に笑われても、100万人にほめられよう。

好きになると、わかることが多くなるものです。キムタクが好きになったら、キムタクのことを、とことん知ろうとするし、写真を財布の中に入れて歩いたりもしますね。

家具でも、石でも、自分が好きだというものをいつも持っておく、机の前に置いておく、定期入れに入れておく。「大人が変な物を持ち歩いて…」と笑われてもいい。50人、100人に笑われても、100万人に褒められることを考えないと、いいデザイナーにならないと思います。

小学5年生以上、全世界の人にわかるようにつくっています。

私の本職のグラフィックの話をしませう。B倍とかB1とかのどっかいポスターを(その大きさを)見る人は、実は少ないのです。雑誌とかパンフレットで紹介される場合は、ハガキよりも小さくなり、カラーでなくモノクロ印刷になることもある。だから、私は小さくなくても、色がなくてもメッセージが伝わるものを制作しています。

ポスターをつくる時は、小学校5年生以上、全世界の人がわかるようにつくっています。これをクライアントにも話して納得しています。

隣の部屋で作品展していますが、その中に27・8年前の東京都のポスターがあります。これには、こんなエピソードがあります。

私が作る前に「東京をきれいな町にして東京オリンピックを迎えよう」というポスターを町で見かけました。私は「そのポスター自体が町を汚している」と思い、勝手に東京都に3案ばかり



私案を作って持って行きました。すると都の担当者も「こっちの方がいいですね」ということになって、紙代と鉛筆代という報償費をもって採用となりました。以来、自分で写真を撮ってコピーを書いて、少ない予算の中で制作しました(私は、お金をあまり使わないで作らせて世界一のデザイナーだと思っています)。

いろんな所に私のポスターが貼られたものですから、水道局とか建設局などからも声がかかり、都の仕事を安い報酬、ほとんどボランティアに近いお金で14年間作りました。このように世の中で悪いと思ったものは、提案してもいいのです。

デザイナーは、絶えず自分にテーマを出し続けることが大切です。

最後に、デザイナーのみなさんに言いたいのは、「自分で自分に宿題が出せないようになったら、デザイナーをやめたほうがいい」ということ。絶えずテーマをもって考え続けていないと、新しい仕事がない時に対応できません。たとえば、石を勉強することでデザインがわかる、木を勉強するとデザインがわかる。ひとつのことを3年、5年と取り組んでいると、テレビを見ている時も、新聞を読んでいる時も違ってきます。

もう一点、「自分の脳に癖をつける」ということ。私の場合、銀座の喫茶店で、特定の席に座るといいアイデアが出てくるという場所を5か所持しています。急ぎの仕事の時は、そこに行きます。それから、手を洗うといくとか、爪を切るとか、耳を引っ張るとかいろいろ暗示もかけます。そうすると、いいアイデアが浮かんでくるのです。人間の頭は、暗示にかかりやすいのです。試してみてください。

今回は、いろいろとお話しましたが、香川県デザイン協会は、グラフィック・デザイナーだけではなく、県と企業とデザイナーが一緒にやっていると、たいへん魅力的です。いろんな人が参加していることが素晴らしい。これから、デザインが重要視される時代になります。香川県デザイン協会の今後のご活躍と、ますますの発展をお祈りしています。

事務局からのお知らせ

手袋、袋物、ニット製品、新商品など商品デザイン 締め切り迫る 平成10年11月6日(金)必着

香川県デザイン協会では、日本手袋工業組合から手袋、袋物、ニット製品、新商品等のデザイン開発の委託を受け、「商品デザイン募集」を行っております。過日、会員のみなさまに募集要項などをお知らせいたしました。もう、制作いただけましたか。間もなく締め切りを迎えます。デザイナーと産業界との交流のためにも、みなさまの独創的なデザインを、締め切り当日までお待ちしております。

香川県デザイナーズリスト 締め切り迫る 平成10年11月16日(月)必着

香川県デザイン協会では、香川県から業務委託を受け、「香川県デザイナーズリスト」を作成することになりました。先般9月末に正会員のみなさまに郵送いたしました原稿入稿要綱等に従って、原稿をお寄せください。

会員デザイン作品展 香川デザインフェスタ 作品募集!

開催日時/平成11年3月17日(水)~21日(日)
展示会場/香川県文化会館(1~3階)決定!

※すべての会員の参加をお願いします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

産地見学会報告

デザイナーと地場産業界との交流、はじまる。

香川県デザイン協会が発足して、はじめての地場産業界との交流事業となる手袋産地見学会を平成10年8月10日(月)に行いました。見学会には、香川県デザイン協会会員21名が参加。エールック(株)、(株)レガシ、ヨークス(株)の本社・工場などを見学し、日本手袋工業組合(白鳥町)の吉田理事長や役員の方々との意見交換を行いました。この席では、厳しい経済環境下での地元企業の新製品にける熱意、デザイナーのデザインに関する



る思いなどが熱くぶつかり合い、非常に活発な意見が交わされました。後日、日本手袋工業組合よりデザイン開発業務委託を受け、現在、上記にありまうように会員への募集を行っています。

香川県デザイン協会では、このような交流を今後も積極的に行い、地域の活性化、デザイナーの社会的貢献などにつなげていきたいと思います。また、12月頃に「うらわ」産業界の見学会を予定しています。

香川県デザイン協会入会状況

(平成10年10月31日現在)
正会員 法人50 個人66
賛助会員83 準会員5 合計204

正会員内訳

分野	法人	個人	計
A グラフィック	18	20	38
B 建築・環境	12	9	21
C インテリア	4	9	13
D イングラス	0	0	0
E テキスタイル	3	2	5
F その他	13	26	39
	50	66	116

賛助会員内訳

分野	会員数
A 製造業	27
B その他企業	18
C 個人	10
D 地場組合	8
E 商工団体	9
F 行政	11
計	83

情報をお寄せください。
香川県デザイン協会では、会員と協会をより積極的に活動してまいります。より充実した協会活動へ積極的に関心を持ってくださるようお願いいたします。

デザイナーだけでなく、クリエイターのみなさまの会をお待ちしています。詳しくは——

香川県デザイン協会

事務局●〒761-0301高松市林町2217番地15
香川県産業顕彰センター内
Tel 087-869-3700-Fax 087-869-3703

協会シンボルマークにご応募ありがとうございました

応募点数は34点でした。審査結果が決まりましたら、会員のみなさまに報告いたしますのでしばらくお待ちください。